

〔中学校〕

平成26年度

# とちぎの子どもたちの学力向上を図る授業改善例

—とちぎっ子学習状況調査結果を踏まえて—



平成26年11月

栃木県教育委員会

県教育委員会では、とちぎっ子学習状況調査の結果から明らかになった各教科の課題を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業改善の一例を示すものとして本資料「平成26年度とちぎの子どもたちの学力向上を図る授業改善例〔中学校〕」を作成しました。

明らかになった課題については、調査の対象学年はもちろんのこと、学校全体で共有し、組織的・継続的な取組によって、改善を図っていくことが大切です。

本資料が、各学校における日々の授業や研修会等、様々な場面で活用されることにより、児童生徒一人一人の学力の向上につながることを願っています。

## 目次

◇ 目次	1
◇ 平成26年度とちぎっ子学習状況調査の結果より	2
◇ 本資料の見方	3
◇ 各教科の資料	
国語「新聞を使って必要な情報を集める方法を身に付けよう」〔大問6(1)〕	5
～新聞の紙面構成に基づいて、必要な部分を探して読む～	
社会「とまらない熱帯林の減少」〔大問4(1)〕	7
～複数の資料を読み取り、説明する～	
「どのように武士は力をつけていったのだろう」〔大問7(1)〕	9
～歴史の流れについて自分の言葉を用いて表現する～	
数学「マッチ棒の本数を工夫して求めよう」〔大問16(1)②〕	11
～図と式を結び付けながら筋道立てて説明する～	
理科「地層のようすから過去の大地の変化を推測しよう」〔大問13(3)〕	13
～小学校の学習内容を想起して、地層のようすについて理解を深める～	
英語「書き手のメッセージの理解を深めよう」〔大問6(2)〕	15
～大まかな流れをつかみ、書き手の意図を理解することができる～	
「場面や条件に応じた英文を書こう」〔大問8(2)〕	17
～場面や条件に応じて適切な英文を書くことができる～	
◇ 学力向上のためのQ&A	19

## 平成26年度とちぎっ子学習状況調査の結果より

- 基礎的・基本的な知識・技能に関する問題については、おおむね良好な結果であると考えられるが、思考力・判断力・表現力等に関する問題では、複数の資料を的確に読み取り、条件に合わせて自分の考えをまとめて記述する問題等に課題が見られる。
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加えて、思考力・判断力・表現力等を育むためには、各教科の特性に応じた言語活動の充実が求められる。また、記述式の問題において無解答率が高くなる傾向があることから、その原因を探るとともに、その改善に向けた指導を工夫する必要がある。

※中学2年生対象に実施した調査問題は、中学1年までの学習内容です。

国語	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については、おおむね良好な結果である。「読むこと」については、目的に応じて必要な情報を読み取ることや文章の内容を整理し要旨をまとめることなどに課題が見られる。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、漢字の書きや品詞、単語の理解に課題が見られる。
社会	海洋の分布や古代文明に共通する特色について理解することについては、おおむね良好な結果である。しかし、地図やグラフなど複数の資料を比較し関連付けて読み取ったり、読み取った内容を活用して考えたりすることに課題が見られる。また、基礎的・基本的な歴史的事象の内容の理解が不十分で、歴史の流れを大きく捉えて理解することについても課題が見られる。
数学	「数と式」の問題については、おおむね良好な結果であるが、「図形」では空間図形の体積、表面積の問題に課題が見られる。「関数」では、比例の関係について理解することや比例の関係を利用して解決を図る問題に課題が見られる。「資料の活用」では相対度数を求める問題に課題が見られる。また、式が成り立つ理由を筋道立てて説明する記述式の問題や、数学的に表現された事柄を読み取る問題に課題が見られる。
理科	記述式の問題の無解答率が20%前後であり、観察、実験の結果を考察し、科学的な知識や概念に基づいて説明することに課題が見られる。また、「身近な物理現象」の領域は比較的良好であったが、「大地の成り立ちと変化」の領域では、「地層の重なりと過去のようす」など、野外観察に関係する内容に課題が見られる。
英語	「聞くこと」については、おおむね良好な結果であったが、まとまりのある英文の読み取りに課題が見られる。「読むこと」については、まとまりのある英文を読んで、あらすじを理解したり、大切な部分を正確に読み取ったりすることに課題が見られる。「書くこと」については、場面や条件に応じて適切な英文を書く力が十分に身に付いていない。無解答率が高い設問があることから、その原因を探るとともに、改善に向けた指導を工夫する必要がある。

# 本資料の見方

- 平成26年度とちぎっ子学習状況調査「報告書」において取り上げた「課題となる小問」から、各教科1問から2問を選び、授業の改善を図るための事例としてまとめました。
- 事例は、調査問題そのものあるいは類似の問題を授業で扱うことで、直接的に課題の改善を図ることを想定したものと、課題と関連のある内容や領域に関する学習活動についてまとめたものがあります。
- 1単位時間における授業の事例または、複数時間での活用を想定した事例を紹介しています。また、関連する他学年での学習活動を取り上げて各学年での指導のポイントについて触れている事例もあります。

① 教科名を示しています。

② タイトルではどのような活動を行うのかを、サブタイトルではどのような力を身に付けたいのかを示しています。

③ 調査結果から見られた課題についての解説や本授業改善例の作成意図、指導のねらい等を示しています。

社会

**「とまらない熱帯林の減少」**  
～複数の資料を読み取り、説明する～

地図やグラフなど複数の資料を比較し関連付けて読み取ったり、読み取った内容を活用して考えたりする問題に課題が見られました。

そこで、南アメリカ州における熱帯林の減少について、複数の資料から読み取り、読み取った内容を説明できるようにする授業改善例を紹介します。

**世界的に環境への関心が高まっているにもかかわらず、なぜ、熱帯林は減少しているのだろう。**

**1. 熱帯林減少の現状を確認する。**

資料1

**世界の森林面積の地域別割合 (2011年)**  
世界計 402948 万 ha

地域	割合 (%)
アジア	14.7
アフリカ	16.7
ヨーロッパ	25.0
北中アメリカ	17.5
南アメリカ	21.4
オセアニア	4.7

世界国勢図録 第24版

資料2

**世界の地域別森林面積の変化**

■ 2000～2010年

地域	変化 (万ha/年)
世界計	-521
アジア	224
アフリカ	-341
ヨーロッパ	68
北中アメリカ	-1
南アメリカ	-400
オセアニア	-70

国連食糧農業機関 「森林資源評価 2010」

資料1から分かることはどんなことですか？

世界の森林面積に占めるアジア州の割合は14.7%で、アフリカ州は16.7%で、ヨーロッパ州は・・・です。

資料2から分かることはどんなことですか？

2000年から2010年は、世界全体では1年間に521万ha減少しています。アジア州では224万ha増加していて、アフリカ州では341万ha減少していて、ヨーロッパ州では・・・です。

資料1と資料2の2つの資料から分かることはどんなことですか？

世界の森林面積に占める割合が大きいヨーロッパ州では森林面積は減っていないのに、南アメリカ州やアフリカ州の森林の減少している面積がとても広いことが分かります。

**ポイント**

思考の流れを大切にしましょう。まず資料に表されている事柄を大まかに捉えさせ、内容を確認することが大切です。そして読み取った事実を基に、どのようなことが考えられるか解釈させ、自分なりの言葉で説明させましょう。

**ポイント**

問いかけ方の工夫をしましょう。どんな解答を引き出したいかで問いかけ方が変わります。南アメリカ州やアフリカ州における熱帯林の減少が著しいという現状について捉えさせるためには、2つの資料を関連付けて考えるような問いかけ方が求められます。

**留意点** 「万ha」などの大きな単位では、生徒は実感をもちにくくなりますが、身近な例に置き換えることで捉えやすくなります。例えば「1年間で521万ha減少している」ではなく、「1分間で東京ドーム約2個分の面積が消失している」などと表現することで、実感を伴って理解することができます。

④ 本授業改善例において、指導の際に特に気を付けていただきたい活動の意図や指導上の留意点を示しています。

【コラム】 学力向上の検証改善サイクルを効果的に運用するために  
本資料を指導計画の改善、評価に生かしましょう

指導計画は、固定したものとせず、日々の実践を通して見直し、修正、改善を加える必要があります。学習指導要領解説総則編には、「指導計画を作成するに当たっては、(略)生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、効果的な指導を行うことができるよう配慮しなければならない。」とあります。

本資料は、調査結果から明らかになった課題を解決するための授業改善の一例を示したものです。本資料の事例を参考に、必要に応じて今年度の指導計画を修正したり、次年度の計画を作成する際に取り入れたりするなどして課題の改善に取り組みましょう。

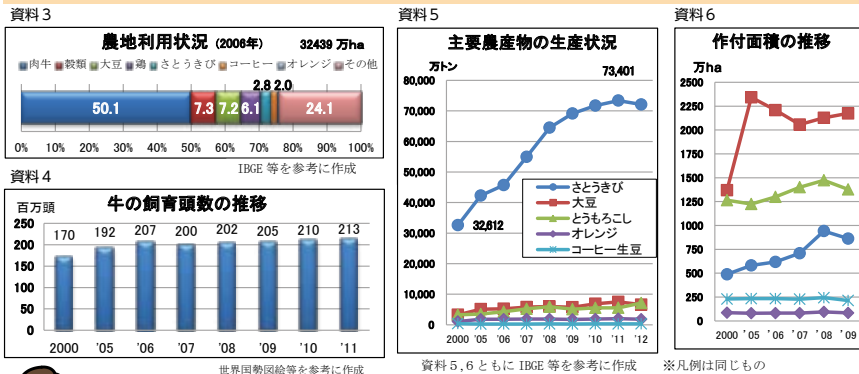
⑤ 該当する問題の概要、正答率、学習指導要領との関連、出題のねらい等を示しています。

課題の見られた問題の概要と結果

大問4 (1)「南アメリカ州に関する資料の読み取り」

- 正答率：48.3%、無解答率：0.7%
- 学習指導要領における領域・内容：[第1学年] 地理的分野 (1) ウ (オ)
- 出題のねらい：南アメリカ州の言語、人口、人種・民族に関する図を読み取ることができる。

2. 熱帯林が減少している原因について、ブラジルに関する複数の資料から考える。



ブラジルは世界で一番、熱帯林の面積が減少している国です。1年間で約260万ha減少しています。なぜ、ブラジルでは熱帯林が減少し続けているのかを、複数のグラフを比べたり、年による変化に着目したりしてグループで話し合いました。

資料3を見ると、ブラジルの農地利用状況は肉牛の割合が約50%だから、牧場をつくるために、熱帯林が切られているんじゃないかな。広い土地が必要なんだよ。

でも、資料4を見ると牛の飼育頭数はそれほど増えていないよ。急激に増加しているさとうきびの畑を作るために、熱帯林を切っているんじゃないの。

さとうきびは資料3と資料5を見ると、生産は増えているけど、面積の割合はとても小さいことが分かるよ。資料6から倍くらいの面積になっていることは分かるけど。

こんなにさとうきびを栽培しているけれど、何に使うのかしら。やっぱり砂糖にするのかな。それとも別の目的があるのかな？調べてみないと分からないわ。

だんだん核心に近づいてきましたね。熱帯林の減少にはいろいろな要因が考えられそうですね。グラフを見て分かったことや考えたことをまとめ、きちんと書いておきましょう。また、さとうきびの急激な増加がなぜ起きたのでしょうか。予想を立てて、調べてみましょう。

**ポイント**  
資料を読み取らせる場合は、比較や関連付け、変化の様子など、読み取るための視点を示すことが大切です。

**ポイント**  
熱帯林の減少に関して多面的・多角的に考察させるためには、畑地等が増加している理由を問いかけることも考えられます。

本授業改善例活用のポイント

**留意点** 表や図などには社会科特有の内容が含まれることがあります。資料4のように単位が百万頭の場合、2011年は二億二千三百万頭と読めるようにします。

- 生徒に説明させる際には、必ずどの資料を根拠にしているか述べさせることが大切です。
- 資料の読み取りは、課題を解決するための手段です。何のために読み取るのか、読み取ることで何が分かるかを意識することが重要です。そのため、授業のねらいにあわせて問いかけが必要となります。
- 資料の読み取りの場面を意図的に指導計画に取り入れ、継続的に繰り返し指導することが大切です。

⑥ 指導上の留意点を表しています。

⑦ 本授業改善例を活用する際に、参考となる情報等を示しています。





# 「新聞を使って必要な情報を集める方法を身に付けよう」

～新聞の紙面構成に基づいて、必要な部分を探して読む～

新聞記事を読み、リードとして必要な情報を書く問題において、指定された条件に沿って読み取り、適切に書くことに課題が見られました。

新聞記事から情報を収集する際には、紙面構成の特徴に注意して読む必要があります。この問題の場合は、リードと本文の関係に注意することが大切です。そこで、リードの書き方の特徴を話し合ったり、本文に合わせてリードを書いたりする学習活動を取り入れた授業改善例を紹介します。



## 学習の流れ

1 実際の新聞を読み、記事の特徴を知る。

2 とちぎっ子学習状況調査の問題を活用し、見出しや本文を基にリードを書き、基本的なリードの書き方を学ぶ。

3 見出しとリードを隠した実際の新聞記事を読み、自分で見出しとリードを書いて実際のもものと読み比べる。

## 1 新聞にはどんなことが書いてあるか調べてみよう。

実際の新聞で、見出し、リード、記事内容による文体の違いなどの特徴を学ぶ。



小学校5年生の時の学習などを思い出し、リードについて分かることを確認しましょう。

記事の中心的なことを、5W1Hを踏まえて書いていることを勉強しました。



同じ行事の記事が載っている2つの新聞を使って、見出しとリードの共通点と違いを見つけましょう。

新聞によってまとめ方が違ってきます。中にはリードがない記事もありました。



### ポイント

光村図書小5「新聞を読もう」、東京書籍小5上「新聞記事を読み比べよう」に、新聞の編集の仕方や記事の書き方、見出し、リードなどについての説明等が掲載されています。それらの教科書を提示するなどして、小学校での学習と本時の学習をつなぎます。

## 2 リードの書き方を学ぼう。

調査問題を使って、見出しや本文を基にリードを書く。

けやき中新聞

発行日 20XX年7月1日(火)  
発行者 けやき中学校新聞部

〔正答例〕  
六月二十八日、千葉県文化会館で行われた関東中学校演劇祭で、けやき中演劇部が金賞を受賞した。

演劇部、悲願の全国中学校演劇祭へ！  
これによって、演劇部は、八月に行われる全国中学校演劇祭に、関東ブロック代表として出場する。本校演劇部が全国中学校演劇祭に出場するのは三年ぶり二回目である。

音楽とダンスを取り入れた創作劇に高い評価  
六月二十八日、千葉県文化会館で、演劇部が上演したのは、校内の文化発表会でも上演した「ふるさとの花」である。脚本を書いたのは二年生の三上はるかさん。三上さんは「文化発表会で多くの人に『感動した』と言ってもらえて自信ができました。全国中学校演劇祭への出場は、私たちの目標でした。過去二年銀賞で出場できなかった悔しさを

中学校2年生調査問題大問6を活用します。



1 「いつ」「どこで」「何が」「どうした」のかが分かるように、40字以上、50字以内で書きなさい。

2 まず、本文の中で必要だと思った部分に傍線を引き、つなぐ順番を考えてから書きましょう。

線を引いた部分が新聞のリードとして必要な内容か、よく考えることが大切ね。



### ポイント

最初は調査問題を活用し、基本的なリードの書き方を学ばせます。次に実際の新聞を用います。内容によって、適宜5W1Hのうちどの要素を入れるか提示します。

## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問6 (1)「新聞記事の内容を読み取る」

- 正答率：45.5%、無解答率：18.5%
- 学習指導要領における領域・内容：[第1学年]C読むこと(1)イ、B書くこと(1)ウ
- 出題のねらい：記事の内容を正確にとらえ、必要な情報を読み取ることができる。

## 3 実際の新聞を使ってリードと見出しを書いてみよう。

これまでの学習を基に、実際の新聞記事を読んで見出しとリードを書く。



書き方のポイントが分かったところで、実際の新聞を使って見出しとリードを書いてみましょう。  
最初に、これまでの学習を思い出して、40字以上、50字以内でリードを書きましょう。書き終わったら20字以内で見出しを書きましょう。  
読者は中学生とします。

### ポイント

リードなどの字数の条件は、実際の新聞に従って設定します。

### ポイント

引用部分が本文どおりであるか、5W1Hのどの内容を書くのか、文末表現を統一しているかなどを意識して書くよう指導します。

見出しとリードを隠した実際の新聞を用います。

調査問題で練習したから、どの部分をリードに入れたいか、自信をもって選ぶことができたわ。



書き終わったら一読して内容を捉えることができる分かりやすい文になっているか、友達と確かめ合ひましょう。

### ポイント

リード、5W1H、文末表現など、授業で学習した言葉を用いて、友達の書いた文章のよいところを指摘させます。

## 本授業改善例活用のポイント

- 新聞の形式を用いて要約の力を付ける言語活動は、説明的文章の単元において補充的に設定することができます。例えば、「流氷とわたしたちの暮らし」(光村図書)、「オオカミを見る目」(東京書籍)、「玄関扉」(三省堂)の一部を新聞の本文とし、リードや見出しを書く活動が考えられます。
- 本改善例は、学校図書館、地域の図書館、インターネットなどで選んだ本や文章から、必要な情報を集め、目的に応じて必要な情報を読み取る学習につなげていくこともできます。他教科等における調べ学習等で活用できる内容ですので、学習内容を校内で共有することが大切です。

# 「とまらない熱帯林の減少」

～複数の資料を読み取り、説明する～

地図やグラフなど複数の資料を比較し関連付けて読み取ったり、読み取った内容を活用して考えたりする問題に課題が見られました。

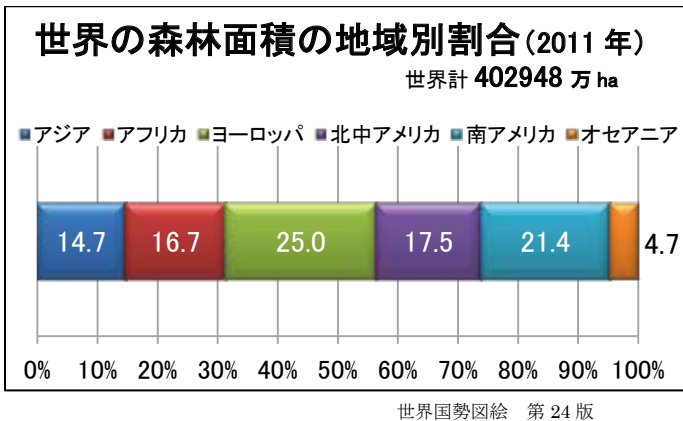
そこで、南アメリカ州における熱帯林の減少について、複数の資料から読み取り、読み取った内容を説明できるようにする授業改善例を紹介します。



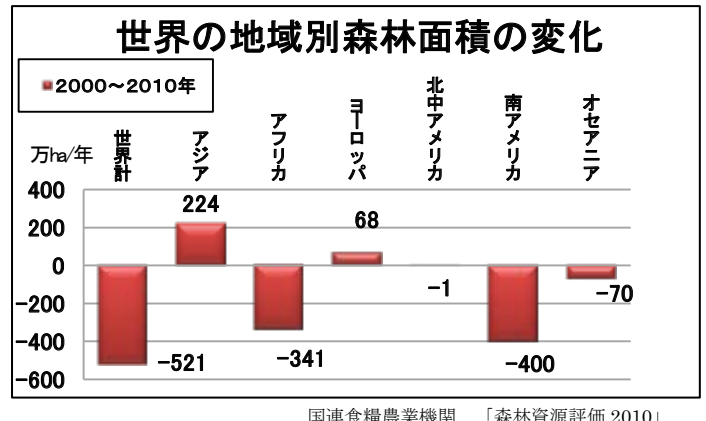
世界的に環境への関心が高まっているにもかかわらず、なぜ、熱帯林は減少しているのだろう。

## 1. 熱帯林減少の現状を確認する。

資料1



資料2



資料1から分かることはどんなことですか？

世界の森林面積に占めるアジア州の割合は14.7%で、アフリカ州は16.7%で、ヨーロッパ州は・・・です。



資料2から分かることはどんなことですか？

2000年から2010年は、世界全体では1年間に521万ha減少しています。アジア州では224万ha増加していて、アフリカ州では341万ha減少していて、ヨーロッパ州では・・・です。



資料1と資料2の2つの資料から分かることはどんなことですか？

世界の森林面積に占める割合が大きいヨーロッパ州では森林面積は減っていないのに、南アメリカ州やアフリカ州の森林の減少している面積がとても広いことが分かります。



### ポイント

思考の流れを大切にしましょう。まず資料に表されている事柄を大まかに捉えさせ、内容を確認することが大切です。そして読み取った事実を基に、どのようなことが考えられるか解釈させ、自分なりの言葉で説明させましょう。

### ポイント

問いかけ方の工夫をしましょう。どんな解答を引き出したいかで問いかけ方が変わります。南アメリカ州やアフリカ州における熱帯林の減少が著しいという現状について捉えさせるためには、2つの資料を関連付けて考えるような問いかけ方が求められます。

### 留意点

「万ha」などの大きな単位では、生徒は実感をもちにくくなりますが、身近な例に置き換えることで捉えやすくなります。例えば「1年間で521万ha減少している」ではなく、「1分間で東京ドーム約2個分の面積が消失している」などと表現することで、実感を伴って理解することができます。



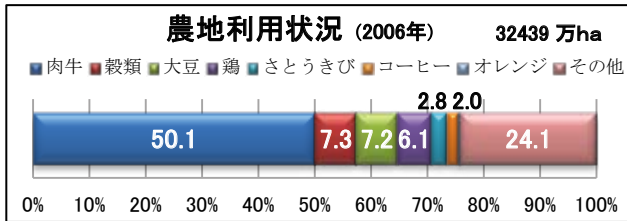
## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問4 (1) 「南アメリカ州に関する資料の読み取り」

- 正答率：48.3%、無解答率：0.7%
- 学習指導要領における領域・内容：[第1学年] 地理的分野 (1) ウ (オ)
- 出題のねらい：南アメリカ州の言語、人口、人種・民族に関する図を読み取ることができる。

## 2. 熱帯林が減少している原因について、ブラジルに関する複数の資料から考える。

資料3



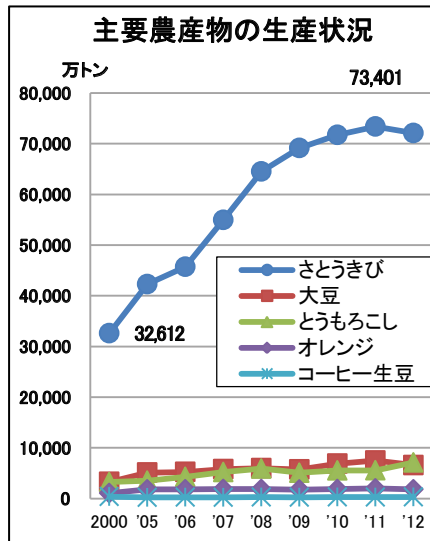
IBGE 等を参考に作成

資料4



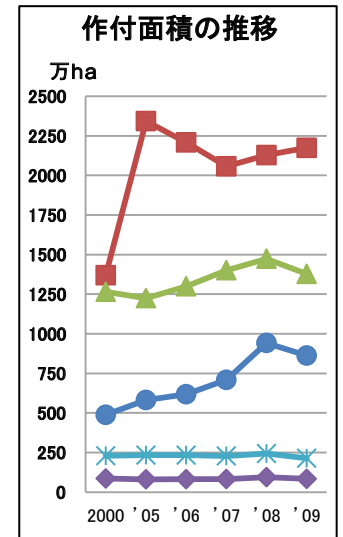
世界国勢図絵等を参考に作成

資料5



資料5,6ともに IBGE 等を参考に作成

資料6



※凡例は同じもの



ブラジルは世界で一番、熱帯林の面積が減少している国です。1年間で約260万ha減少しています。なぜ、ブラジルでは熱帯林が減少し続けているのかを、複数のグラフを比べたり、年による変化に着目したりしてグループで話し合みましょう。



資料3を見ると、ブラジルの農地利用状況は肉牛の割合が約50%だから、牧場をつくるために、熱帯林が切られているんじゃないかな。広い土地が必要なんだよ。



でも、資料4を見ると牛の飼育頭数はそれほど増えていないようだよ。急激に増加しているさとうきびの畑を作るために、熱帯林を切っているんじゃないの。



さとうきびは資料3と資料5を見ると、生産は増えているけど、面積の割合はとても小さいことが分かるよ。資料6から倍くらいの面積になっていることは分かるけど。

こんなにさとうきびを栽培しているけれど、何に使うのかしら。やっぱり砂糖にするのかな。それとも別の目的があるのかな？調べてみないと分からないわ。



だんだん核心に近づいてきましたね。熱帯林の減少にはいろいろな要因が考えられそうですね。グラフを見て分かったことや考えたことをまとめ、きちんと書いておきましょう。また、さとうきびの急激な増加がなぜ起きたのでしょうか。予想を立てて、調べてみましょう。

### ポイント

資料を読み取らせる場合は、比較や関連付け、変化の様子など、読み取るための視点を示すことが大切です。

### ポイント

熱帯林の減少に関して多面的・多角的に考察させるためには、畑地等が増加している理由を問いかけることなども考えられます。

### 本授業改善例活用のポイント

### 留意点

表や図などには社会科特有の内容が含まれることがあります。資料4のように単位が百万頭の場合、2011年は二億千三百万頭と読めるようにします。

- 生徒に説明させる際には、必ずどの資料を根拠にしているか述べさせることが大切です。
- 資料の読み取りは、課題を解決するための手段です。何のために読み取るのか、読み取ることで何が分かるかを明確にすることが重要です。そのため、授業のねらいにあわせた問いかけが必要となります。
- 資料の読み取りの場面を意図的に指導計画に取り入れ、継続的に繰り返し指導することが大切です。

# 「どのように武士は力をつけていったのだろう」

～歴史の流れについて自分の言葉を用いて表現する～

基礎的・基本的な歴史的事象の内容の理解が不十分であるため、歴史の流れを大きく捉えて理解することができていないという課題が見られました。

そこで、鎌倉幕府の成立から南北朝の争乱までを例として取り上げ、起承転結の形式でまとめる活動を通して、中世において武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まっていった過程について、自分の言葉を用いて表現できるようにする授業改善例を紹介します。



## 1

鎌倉幕府の成立から南北朝の争乱までの過程を4つの時期に分けて、それぞれの時期の説明文を書いてみよう。

### 1. 年表を見て、いくつかの期間に区切る。

12 世紀	1167	平清盛が太政大臣となる	起
	1185	守護・地頭が置かれる	
	1192	源頼朝が征夷大將軍となる	
13 世紀	1221	承久の乱がおこる	
	1232	御成敗式目が定められる	
	1274	文永の役	転
	1281	弘安の役 } 元寇	
	1297	徳政令が出される	
14 世紀	1333	鎌倉幕府が滅亡する	結
	1334	建武の新政が始まる	
	1336	南北朝に分かれ、対立する	

#### ポイント

年表を用いることで、歴史的事象を時系列で捉えやすくします。年号を覚えるのではなく、歴史的事象が起こったおおよその時期や期間を捉えさせることが大切です。

#### 留意点

起・承・転・結の4つの期間に分けさせ、それぞれの期間につける見出しを考えさせる。

### 2. 各時期についての説明文を書く。



#### 起

なぜ源頼朝は鎌倉で幕府を開いたのだろう。また、律令政治や平清盛が行った政治と比較して、同じ点や異なる点に着目し、見出しに続けて書いてみよう。

#### キーワード

征夷大將軍、守護・地頭、御家人

見出しは「悲願達成！ ついに成立、武家の政権」にしようと思います。

#### 留意点

朝廷との関係に着目させ、今までとは違う独自の政治のしくみを確立していった過程を書かせる。



#### 承

承久の乱の内容を確認し、その前後で幕府の政治がどのように変化したのか、見出しに続けて書いてみよう。

#### キーワード

承久の乱、執権政治、御成敗式目

見出しは「危機を乗り越えて！ 武家のための御成敗式目」にしようと思います。

#### 留意点

朝廷との関係の変化や、御成敗式目の意義について律令との比較を通して書かせる。

## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問7 (1) 「鎌倉幕府のしくみの変化について考え説明する」

- 正答率：37.4%、無解答率：18.2%
- 学習指導要領における領域・内容：[第1学年] 歴史的分野 (3) ア
- 出題のねらい：承久の乱についての理解をもとに、鎌倉幕府のしくみの変化について考え、説明することができる。



**転**

元の襲来が世の中にどのような影響を与えたのか、当時の社会の様子も踏まえて、見出しに続けて書いてみよう。

見出しは「ピンチかチャンスか！元の襲来」にしようと思います。



#### キーワード

元寇、徳政令

#### 留意点

元が襲来してきた事実だけでなく、当時の御家人がおかれていた経済的な状況や、幕府の支配地の拡大に着目させるなど、元寇を多面的・多角的に捉えさせる。



**結**

なぜ鎌倉幕府は滅んだのだろう。また、その後、世の中がどのように変化していったのか、見出しに続けて書いてみよう。

見出しは「御家人の不満爆発！鎌倉幕府は滅んだけれど」にしようと思います。



#### キーワード

後醍醐天皇、足利尊氏、建武の新政、南北朝の争乱

#### 留意点

鎌倉幕府の滅亡は、元寇から約50年後であることを考慮し、当時の状況を踏まえて書かせることが考えられる。さらに、なぜ建武の新政が短期間で終わり、その後、南北朝の争乱が起きたかについても書かせる。

#### ポイント

説明文は、事実だけを羅列して書かせないようにすることが大切です。そのためには「どのように」「なぜ」と問いかけ、原因や結果、その後の影響などを考えさせて書かせることが必要となります。

## 2 グループでお互いの説明文を読み合い、説明文を完成させよう。

### 1. お互いの説明文を読み合い、どんな点がよいか、またどのように改善したらよいかまとめる。



よい点や分かりにくい点について、お互いに意見を出して、話し合みましょう。

#### ポイント

話し合いの視点を明確にして話し合うことが大切です。また、意見を聞かせることも重要です。

### 2. 話し合った内容を踏まえ、各自で説明文を完成する。



友達の書いた説明文で参考になる内容があれば、自分の説明文に追加しよう。

#### ポイント

4つの時期の内容が一連の流れとしてつながり、特徴を表せるよう書かせることが大切です。

#### 留意点

4つの時期を一人で書くことが難しい場合は、グループで分担して書かせることも考えられる。

## 本授業改善例活用のポイント

- それぞれの期間の出来事を簡潔にまとめさせ、鎌倉幕府の成立から南北朝の争乱までを一連の流れとして説明させることが大切です。
- それぞれの歴史的事象の原因と結果、その後の影響なども含めて書かせることなどが考えられます。
- 中世は武士が台頭し、大きな力をもっていった時代と言えます。その中で鎌倉時代がどのような意義があったかについて、説明文を書くことで捉えさせることが重要となります。

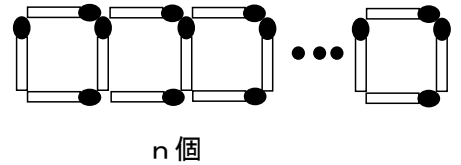
## 「マッチ棒の本数を工夫して求めよう」

～図と式を結び付けながら筋道立てて説明する～

規則的に並べたマッチ棒の本数が、与えられた文字式で求められる理由を、図と式を結び付けながら筋道立てて説明する問題に課題が見られました。

そこで、調査問題と同じ問題場面を使って、図と式を結び付けながら説明できるようにする授業改善例を紹介します。

**問題** マッチ棒を使って正方形を横につなげた形をつくる。正方形を  $n$  個つくるときに必要なマッチ棒の本数を求めてみよう。

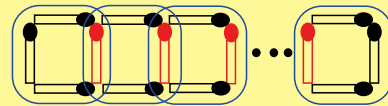
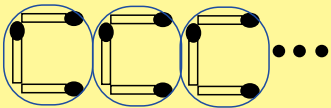


### 1. マッチ棒の囲み方を工夫して、マッチ棒全部の本数を求める式をつくる。

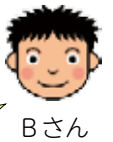


マッチ棒の囲み方を工夫して、本数を求めましょう。

私は、こんな風に囲みました。式は、 $4n - (n - 1)$  です。式を整理すると  $(3n + 1)$  本です。



私は、3本ずつを1つのまとまりと考えました。このまとまりが  $n$  個できるので、 $3n$  本になります。最後にあと1本あるので、この1本をたすとマッチ棒の本数は  $(3n + 1)$  本になります。



Aさんがどのように考えたのか、誰か説明してくれませんか？

4本ずつを1つのまとまりと考えて  $4n$  本です。重なっているところが  $(n - 1)$  本なので、これを  $4n$  からひいて、 $4n - (n - 1)$  になったんだと思います。



私の考えた式は、 $2n + (n + 1)$  なんですけど……。

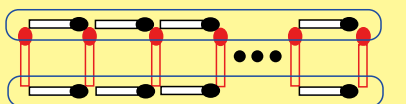


Dさんは、どんな風にマッチ棒を囲んだのでしょうか？

横になっているマッチ棒が、上と下に2組あって  $2n$ 、縦に並んでいるマッチ棒を1つのまとまりと考えると  $n + 1$  になります。これも計算すると  $(3n + 1)$  本になります。



私も、同じ考えです。こんな風に、マッチ棒を囲んだんだと思います。



手立て…表にすることで、**重なりが  $(n - 1)$**  で表せることに気付かせます。

正方形の数	1	2	3	...	$n$
マッチ棒の数	4	7	10	...	
重なりの数	0	1	2	...	$n - 1$

### ポイント

自分の考えを説明する活動だけでなく、他の人が考えた図や式を解釈して説明する活動や、式（結論や結果）だけを発表させた後、その人がどのように考えたのかを解釈し、図や言葉で説明する活動を取り入れます。

### 2. 気付いたことや分かったことをまとめる。

#### ポイント

解決を通して気付いたことや大切だと思うことを自分なりの言葉で記述する活動を行います。生徒の発表により、学級全体で共有する機会を設けます。

#### 分かったこと

- ①図の中に同じまとまりを見つけて囲む。
- ②重なりがある場合には、あとからその重なりをひけば求められる。
- ③表にすると、変わり方の特徴を見つけやすい。
- ④囲み方を工夫すると多様な方法が考えられるが、計算するとどれも同じ結果になる。



## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問16(1)②「事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する」

- 正答率：30.6%、無解答率：33.3%
- 学習指導要領における領域・内容：[第1学年]A数と式（2）ア
- 出題のねらい：事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することができる。

## 問題 マッチ棒の並べ方を変えた問題をつくり、解決してみよう。

### マッチ棒の並べ方を変えた問題をつくり、解決する。



マッチ棒の並べ方を変えて問題をつくります。どのような並べ方が考えられますか？

### ポイント

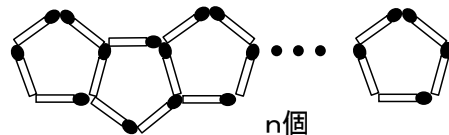
発展的な課題をつくり、学習したことを活用して解決する活動を取り入れます。

**問題** マッチ棒を五角形になるように並べます。五角形が  $n$  個のときのマッチ棒の本数の求め方を考え、説明をかきましょう。

今度は、五角形に並べてみるのはいかがでしょうか。



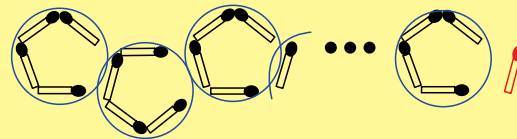
Aさん



私は、さっきのBさんの考えを使って、4本ずつを1つのまとまりと考えました。このまとまりが  $n$  個できるので、 $4n$  本になります。最後にあと1本あるので、この1本をたして、必要なマッチ棒の本数は  $(4n + 1)$  本になります。



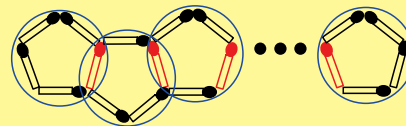
Cさん



私は、Aさんの考えを使ってみました。5本ずつを1つのまとまりと考えて  $5n$  本になります。重なっているところが  $(n - 1)$  本あるので、これをひいて、必要なマッチの本数は、 $5n - (n - 1)$  になります。これを計算すると  $(4n + 1)$  本です。



Bさん



私のさっきの考え方だと、どうなるのかなあ？



Dさん

Dさんの考え方は、正方形だからできたのだと思う。五角形の場合には使えない気がするわ。



Aさん

正方形だからできたということ、もう少し分かりやすく言うと、どういうことでしょうか？



正方形のときは、縦に並んでいるマッチ棒のまとまりと横に並んでいるマッチ棒のまとまりに分けて考えることができたけれど、五角形だと縦と横には分けることができないんじゃないかな。



Cさん

Dさんの考え方は、正方形の特徴を生かした考え方だったということですね。解決方法の中には、問題の条件によって使える場合とそうでない場合があります。図形の特徴に目を向けて、いろいろな方法で考えてみるのが大切ですね。図と式を関連付けて説明できるようにしていきましょう。

### ポイント

お互いの考え方の特徴やよい点、その考えを活用するときの条件や留意点などについて考えたり、話し合ったり、説明を記述する活動を取り入れます。

### 本授業改善例活用のポイント

- 説明のために取り上げる図の囲み方と式については、学級の実態に応じて様々なものが考えられます。
- 図、式、説明などを関連付けて考える学習活動を、普通の授業から意図的に行うことが大切です。
- 考え方の共通点や違い、留意点や条件などに目を向けるような発問を工夫することで、それぞれの考え方のよさや特徴を感じられるようにし、今後の学習で活用できるものとしていくことが大切です。

## 「地層のようすから過去の大地の変化を推測しよう」

～小学校の学習内容を想起して、地層のようすについて理解を深める～

火山灰の層の上下の層に含まれる粒の大きさから、それぞれの地層が堆積したときの海の深さを推測する問題に課題が見られました。

そこで、小学校の学習内容と関連を図った指導の工夫やデジタルコンテンツの利用、授業における調査問題の活用について授業改善例を紹介します。



### 1 小学校の学習内容を確認しよう。

小学校の学習内容を思い出して、中学校の学習内容について理解を深める。

#### 本単元に関する小学校の主な学習内容

【第5学年：水のはたらきによって侵食、運搬、堆積が起こること。】

図1のような装置を用いた実験や川の観察を通して、以下のようなことを学習する。



【図1】

- ・ 流れが速いところでは、土地をけずったり土や石を運んだりするはたらきが大きい。
- ・ 流れがゆるやかなところには、運ばれた土や石が積もる。
- ・ 曲がって流れているところでは、外側は流れが速くて岸が削られ、内側では流れがゆるやかで土が積もる。
- ・ 流れる水のはたらきの違いにより、川の上流には大きな角張った石が見られ、下流には小さな丸みのある石が見られる。
- ・ 「侵食、運搬、堆積」の用語についても確認する。

【第6学年：土地は、れき、砂、泥、火山灰及び岩石からできており、層をつくって広がっているものがあること。】

図2のような装置による地層の堆積実験や、地層の観察により以下のようなことを学習する。

- ・ れき、砂、泥は、それぞれ粒の大きさが違う。
- ・ れき、砂、泥が混じった土を流すと、粒が大きく重い順（下から、れき、砂、泥）に堆積する。
- ・ 地層の広がり、火山灰の堆積



【図2】

#### ポイント

学習指導要領の趣旨に基づき、中学校の教師が小学校の学習内容を十分把握して指導計画を立てるとともに、必要に応じて導入部分等で小学校の学習内容を想起させ、学習内容を体系的に理解できるようにすることが重要です。小学校の学習内容を振り返る際には、次に示すようなデジタルコンテンツなどを利用することも考えられます。

#### 【理科ねっとわーくの活用】

独立行政法人 科学技術振興機構が運営する「理科ねっとわーく」には、様々なデジタルコンテンツがあります。授業での効果的な活用を検討しましょう。なお、活用にはユーザー登録が必要です。

<http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0220d/start.html>（流れる水のはたらきと土地の変化）等

## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問13 (3) 「地層のようすから過去の地層のでき方を推測する」

- 正答率：37.5%、無解答率：1.2%
- 学習指導要領における領域・内容：[第1学年] [第2分野] 2 (2) イ (ア)
- 出題のねらい：地層のようすから、噴火の前後で海の深さがどのように変化したかを推測できる。



「地層の重なりと過去のようす」を指導する際には、小学校の学習内容との関連を十分に図りながら、以下のような点に留意しましょう。

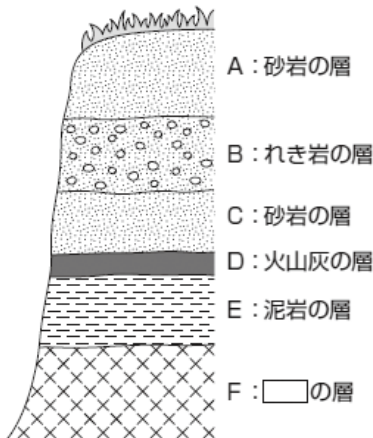
地層の学習については、小学校での初歩的な学習を基盤にして実際に地層の観察を行い、観察の結果と地層堆積モデル実験の結果とを関連付けて考察させることにより、地層の重なり方や広がり方の規則性を見いださせる。

その際、観察の結果を分析して解釈させたり、レポートの作成や発表を行わせたりすることにより、思考力、表現力などを育成することが重要である。

これらの活動を通して、時間概念や空間概念を形成し、地学的な事物・現象は長大な時間と広大な空間の中で変化したり生じたりしているという見方や考え方を養うようにする。

## 2 調査問題で地層のでき方を確認しよう。

### 調査問題を解いてつまずきを確認し、理解を確実なものにする。



**つまずき②：上の層と下の層では、どちらが先に堆積したのか分からない。**

#### 指導のポイント

実験や観察の結果を分析・解釈する際に、地層形成の時間的変化を十分に意識させ、下にある地層の方が早く堆積したことを理解させる。

大問13(3)の問題：Dの火山灰の層の上下の層（Cの層とEの層）を比較して、噴火のあと、地層が堆積した海の深さが深くなったのか、浅くなったのかを答える問題である。誤答の状況から、以下のようなつまずきが考えられる。

**つまずき①：泥岩と砂岩ではどちらが粒が細かいか分からない。**

#### 指導のポイント

小学校の学習内容を想起させるとともに、堆積岩の観察を十分に行い、れき岩、砂岩、泥岩の粒の大きさの違いを確実に理解させる。

**つまずき③：粒の大きさと堆積する場所の関係が分からない。**

#### 指導のポイント

小学校の学習内容を想起させるとともに、右の写真のようなペットボトルを利用した実験装置で、粒の大きさによる沈み方の違いを確認するなどして、大きな粒ほど近くの浅い海に、小さな粒ほど遠くの深い海に堆積することを理解させる。



#### ポイント

単元のまとめに調査問題を効果的に活用し、理解を深めることが考えられます。特に、本設問のような習得した知識を複数組み合わせることで、学習内容の確実な定着や科学的な思考力の育成が期待できます。

## 本授業改善例活用のポイント

- 学習指導要領では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を四つの柱にして、小・中・高等学校における内容の系統性を意識した指導の充実が求められています。事例を参考に指導内容を工夫し、小学校の学習内容と関連を図った指導を心掛けましょう。
- 調査問題を授業中に積極的に活用し、生徒のつまずきを確認した上で、個に応じた指導の充実を図りましょう。

## 「書き手のメッセージの理解を深めよう」

～大まかな流れをつかみ、書き手の意図を理解することができる～

まとまりのある英文を読んで、あらすじを理解したり、大切な部分を正確に読み取ったりすることに課題が見られました。

そこで、題材への関心を高めさせるとともに、調査問題を活用して大まかな流れをつかみながら、書き手の意図を理解するための活動を紹介します。



### 1 題材に関心をもとう。

次のような生徒とのインタラクションを通して、題材への関心を高めさせます。

Teacher: Now I have something to show you. What is this?

Student 1: I think it is a letter.

Teacher: That's right. Do you often write letters to your friend?

Student 2: No, I don't. I write emails.

Teacher: This is a letter from my friend in Canada. Do you know Nancy? This is a letter from her. She was an ALT at our school.

Student 3: I really want to read it soon. Can you show me her letter?

Teacher: Sure. Let's read her letter and try to understand it together. After that, I would like all of you to write a letter to Nancy.

#### ポイント

生徒が主体的に英文を読み取るためには、生徒の身近なことから関連付けながら、題材の導入を工夫することが大切です。また、単元の最後に「返事を書く」という言語活動に取り組むことを伝えることで、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができ、学習意欲を高めることができます。

### 2 どんなことが書かれているのか、予想しながら読もう。

調査問題を活用して次のような読み取りのポイントを示し、大まかな流れを理解させます。

- 1 When did Shota write the letter?
- 2 Where is he staying?
- 3 What did he do in London?
- 4 Does Shota like Mike? And why do you think so?
- 5 What do you think is the main purpose of writing this letter?

4、5の質問に対して、どんな答えが考えられますか。クラス全体で考えましょう。



#### ポイント

あらかじめ読み取りのポイントを示すことで、焦点を絞って英文を読むことができます。4、5のような質問に答えるために、生徒は何度も英文を読むことになり、英文の理解がさらに深まります。また、読み取りのポイントの示し方については、生徒の実態に応じて工夫しましょう。



## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問6 (2) 「手紙文の読み取り」

- 正答率：23.9%、無解答率：27.6%
- 学習指導要領における領域・内容：言語活動 ウ 読むこと (ウ)、エ 書くこと (ア)
- 出題のねらい：手紙文を読んで、翔太が滞在している日数を読み取ることができる。

### 3 手紙の内容について友達と問答しよう。

手紙の内容についてペアで問答させ、大切な内容について正確に理解させます。



Who wrote this letter?

Shota did. On the first day, where did he go?



He went to a soccer stadium. Who held a party for Shota?

Mr. Smith did. Did Shota try to speak English at the party?



#### ポイント

この活動を行う前に、生徒の実態に応じて質問を作成する時間を意図的に設けることで、問答がスムーズに行われます。

### 4 手紙文の内容を相手に伝えよう。

次の要約文を見ながら、相手に手紙の内容を伝えさせます。

Shota wrote a letter to Ms. Brown on ( ) 30. He is staying at ( ) house. On the ( ) day, he saw a ( ) game at a stadium with Mr. Smith. On the ( ) day, Mr. Smith held a ( ) for Shota. He met Mike there. Last day he ( ). They ( ) it very much.

#### ポイント

相手に手紙の内容を要約して伝えるためには、重要な情報とそうでない情報を区別したり、文章を短縮したりしなければなりません。生徒の実態に応じて、文の一部を空欄にすることも考えられます。

### 5 ブラウン先生になりきり、翔太に返事を書こう。

手紙の内容を理解させた後、自分の考えや気持ちを書き手に伝える言語活動に取り組みさせます。



Lastly I want you to write a letter to Shota. If you were Ms. Brown, what would you write back to Shota? Write more than three sentences.

#### 本授業改善例活用のポイント

- 生徒が主体的に英文を読み取るためには、教師の発問が大切です。英文に示された内容を読み取らせる質問だけでなく、英文には直接示されていない内容を推測させる質問を示すことで、読み取りに対する学習意欲が高まり、英文の理解も深まります。
- 「ナンシーに返事を書こう」や「翔太に返事を書こう」など、英文を読んで自分の考えや気持ちを発信する言語活動に取り組みさせることで、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら英文を理解することができます。

## 「場面や条件に応じた英文を書こう」

～場面や条件に応じて適切な英文を書くことができる～

場面や条件に応じて適切に英文を書くことに課題が見られました。

そこで、場面や条件に応じて適切な英文を書くために、言語材料について理解したり練習したりする活動や、互いの考えや気持ちを伝え合う活動を紹介します。



### 1 対話文を理解し、ペアで役割を演じてみよう。

次の対話文の内容を理解させた後、ペアで役割を演じる活動に取り組みます。その際、生徒に場면을想起させるような質問を工夫することで、言語の使用場面やその働きについて意識させます。

Mike: Excuse me.  
 Woman: Yes?  
 Mike: Is this your change?  
 Woman: Pardon?  
 Mike: Your change.  
 Woman: Oh, my change!  
 Thank you.  
 Mike: You are welcome.  
 [平成17年検定 NEW HORIZON English  
 Course 1 p40 ~ p41] 東京書籍

What does he buy?

Where are they talking?

How much is her change?

How old is the woman?

Are they facing each other?

How is Mike? Do you think he is a kind boy?



### ポイント

言語材料の指導に当たっては、言語材料が自然に使われる場面を設定し、それらの働きを意識した導入を行うことにより、さらに理解を深めることができます。その際、単に役割を演じさせるのではなく、生徒が興味をもって取り組めるように言語活動を工夫しましょう。

### 2 場面や条件に合う適切な英文を書こう。

次のような場合について、言語の使用場面を考えながら、適切な英文を書かせます。



5の質問の答えとして、どんな英文が考えられますか。クラス全体で考えましょう。

#### Questions

- 1 教室でペンを拾いました。誰のものかを尋ねる場合
- 2 毎朝、昇降口を掃除している生徒をほめる場合
- 3 転校生に、住んでいる場所を尋ねる場合
- 4 廊下を走っているケンを注意する場合
- 5 待ち合わせの時間に来ないケンに、電話で怒りを伝える場合

#### Answers

- 1 Look at this pen. Whose pen is this?
- 2 You are a good student.
- 3 Excuse me, where do you live?
- 4 Ken, don't run here.
- 5 Hello, Ken. What are you doing now?

### ポイント

「教室でペンを拾いました。誰のものかを尋ねる場合」のように教師の問いを工夫することで、言語の使用場면을想起したり、既習の言語材料の中から場面や条件に合う表現を選択したりすることができます。また、既習の言語材料を繰り返し学習するような言語活動を計画的に行うことで、言語材料の一層の定着が図られます。

## 課題の見られた問題の概要と結果

### 大問8(2)「場面や条件に応じた英作文」

- 正答率：21.5%、無解答率：37.6%
- 学習指導要領における領域・内容：言語活動 工 書くこと（工）
- 出題のねらい：相手を誘う英文を書くことができる。

## 3 オリジナルスキットを作ろう。

次の基本文から1つ選び、その基本文が使われる場面を意識しながら2～3ターンのオリジナルスキットを作り、ペアで役割演技の活動に取り組みます。

〈基本文例〉

- 1 Let's eat lunch together.
- 2 Please help me.
- 3 Can you help me?
- 4 Do you have a pen?
- 5 Be careful.
- 6 Do you know her?
- 7 I have a headache.
- 8 I am studying English now.

〈生徒の作品例〉

A : Hi, B. Did you bring a lunch?  
B : Yes, I did.  
A : Let's eat lunch together.  
B : Sure.

A : What are you doing now, B?  
B : I am watching TV.  
A : I am cooking dinner.  
Please help me.  
B : OK. What can I do for you?

### ポイント

スキット作りや役割演技の活動を通して、話し手の考えや気持ちを理解させることができます。

Aはどんな気持ちで、“Let's eat lunch together.”や“Please help me.”と言っていますか。

## 4 テーマに基づいてペアで対話しよう。

テーマに基づいてペアで自由に対話させ、その対話文を書かせます。教師が対話の条件を意図的に示すことで、生徒の実態に応じて指導することができます

「好きな食べ物」をテーマにした対話例

A: Hi, B. What is your favorite food?  
B: I like hamburgers.  
A: Oh, really? Do you know the new hamburger shop?  
B: No, I don't. Where is it?  
A: It is near Midori station.  
B: Midori station? That is near my house. I really like cheese burgers.  
A: Me too. Let's eat them together at the new shop.  
B: That sounds nice. How about next Sunday?  
A: OK. Do you have a special coupon?  
B: A special coupon? What is that?

どんな場面を設定しましたか。  
また、2人はどんな関係ですか。



次の条件を基に、ペアで対話しましょう。

- 1 対話の中で必ず“Let's ~.”を使うこと。
- 2 5ターン以上の対話をする。



### ポイント

対話の後に、対話した英文を書かせることで、言語の使用場面やその働きについての理解度を確認することができます。また、書いた英文をクラス全体で共有することで、さらに、表現力を高めさせることができます。

## 本授業改善例活用のポイント

言語材料について理解したり練習したりする活動と互いの気持ちや考えを伝え合う活動のバランスを考慮しながら、計画的に言語活動を行うことが大切です。また、「話すこと」の活動と関連させることで、「書くこと」への抵抗感を減らすとともに、さらに表現力を育成することができます。

# 学力向上のための

# Q&A

児童生徒の学力を向上させるためには、授業改善や家庭学習の充実など様々な視点があります。ここでは、調査結果を活用した学力向上のための手立てをQ&A形式で示しています。児童生徒の実態や学校の実情に応じて適宜活用してください。

## Q1

調査問題を授業で活用したいと思いますが、どのような点に注意すればよいですか。



## A

自校の課題を解決するために、調査問題を授業で活用することは大切です。まず、教師自身が問題を解き、どのような問題が、どのような意図で出題されているのかを確認する必要があります。そして、調査結果資料や報告書等を活用して、自校の課題を明らかにします。

明らかになった課題を改善するために、調査問題がどの学習内容と関連しているのかを年間指導計画で確認することで、調査問題を意図的・計画的に授業で活用することができます。

## Q2

本校の児童生徒質問紙の調査結果を見ると、「家で、学校の宿題をしている」との回答は100%近いのに、思うように学力がついていません。家庭学習を効果的に行わせたいのですが、どんな内容をどのように取り組ませたらよいのでしょうか。



## A

とちぎっ子学習状況調査の結果から、テストで間違えた問題について勉強している児童生徒の平均正答率が高いことが分かりました。このことから、教師が意図的にテストの間違い直しを行わせるなど、家庭学習の課題を個に応じた内容とすることも効果的であると考えられます。以下にほかの例を示しますので参考にしてください。

- 授業で間違えた問題をもう一度解く。
- 文章を読んで分からない言葉の意味を辞書等で調べる。
- 復習として家庭学習ノートに授業の内容を工夫してまとめる。

これらの指導の工夫により児童生徒が各自の課題を確認したり、できなかった内容ができるようになったりすれば、学習した内容の理解が深まるだけでなく、家庭学習が自分のためになっていることを実感させることができます。

なお、県教育委員会発行の「家庭学習のすすめ」教職員用リーフレットに「家庭学習を充実させるポイント」等が示されているので御参照ください。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/education/kyouikuzenpan/kyouikuiinkai/kateigakusyuu.html>



## Q3

各種学力調査の結果から、本校の子どもたちは無解答率が高いという課題があることが分かりました。

無解答率を下げるには、学校全体としてどのように取り組めばよいでしょうか。



## A

とちぎっ子学習状況調査の結果から、正答率の低い集団は無解答率が高いことや「難しい問題にであろうとやる気が出る」との回答が4～5割前後にとどまる傾向が明らかになりました。各学校においてどのような問題で無解答率が高いのかを確認し、その原因を探ることにより、児童生徒のつまずきに応じた指導を充実させることが大切です。無解答率が高い原因と考えられること(●)及び改善の視点(◇)を以下に示します。

● 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていない。

◇ 「とちぎの子ども基礎・基本」の活用や繰り返し学習の工夫等により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図りましょう。

● 条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述することができない。

◇ 記述式の問題について、書くための条件が緩やかなときには比較的記述することができですが、厳しい条件になると無解答率が高くなる傾向があります。指導する際は、字数や使用しなければならぬ語句の条件を段階的に増やすなど課題の提示の仕方を工夫するとともに、記述の仕方について具体的で丁寧な指導を計画的・系統的に行いましょう。

● 難しい問題に挑戦しようとしにくい。

◇ 初めから完璧な解答を求めずに、児童生徒に寄り添いながら思考の過程を認め励ますことで自信をもたせ、難しい問題に挑戦する意欲を高めましょう。

このように様々な原因や改善策が考えられますが、校内研修等により改善の視点を共有し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図ることが重要です。

## Q4

年度末に習得状況を確認し、児童生徒に課題の克服を促すとともに、指導の改善を図りたいのですが、どうすればよいですか。

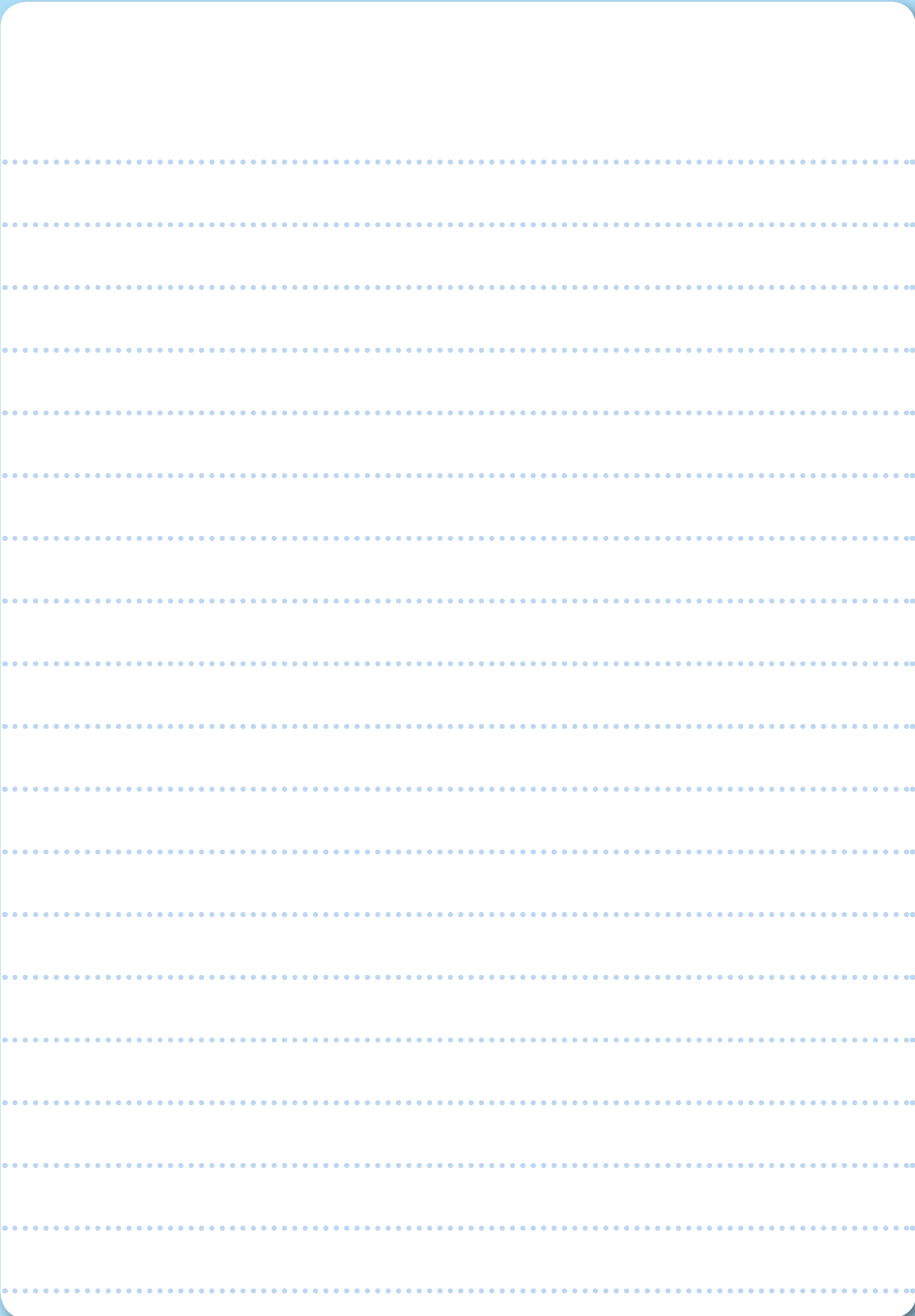


## A

これまでの学力調査の結果から、下の学年のつまずきが、上の学年の学習に影響していることが分かります。小・中学校9年間の学びの連続性を重視するとともに、児童生徒に適切な時期に自らの課題を気付かせることが大切です。

習得状況の確認については、児童生徒の課題に対応した自作問題が有効ですが、これまでに公開されているとちぎっ子学習状況調査、全国学力・学習状況調査、「とちぎの子ども基礎・基本」習得状況調査等の問題や「とちぎの子ども基礎・基本問題事例集〔基礎・基本編〕〔活用編〕」等を利用することが考えられます。







平成26年度

## とちぎの子どもの学力向上を図る授業改善例〔中学校〕

—とちぎっ子学習状況調査結果を踏まえて—

平成26年11月発行

〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田1-1-20  
栃木県教育委員会事務局学校教育課 学力向上推進室

TEL 028-623-3367

FAX 028-623-3361

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/tochigikko.html>



古紙配合率80%再生紙を使用しています